

勝林寺々報



お正信偈（三）

「正信偈」をうたい出されるにあたつて親鸞さまは、おおよそ次のような意味のことをおつしやつています。

「正信偈」を何のためにうたうのかという心をのべられるのです。

私たち凡夫を、如来の大きなものなかに生れかわらせ、さとりの世界にまで迎え取つてくださるのは、ひとえに、凡夫悪人めざめよと働きかけよびかけてくださる如来さまの「真実行」と、そのよび声によびさまされ如来との親子対面のよろこびを得さしたいという「真実信心」の願いとによるのです。

その如来さまの私への願いを、数ある教えのなかから選び出してお説きくださつたのがお釈迦さまの「大無量寿經」のご説法でした。

さてこの「大無量寿經」を、私たちはどう信じさせてもらえばよいのでしょうか。飛鳥大師といふお方は、「たゞ一心に如来の願いを聞き、従わしてもらうばかりよ」とおつしやつています。

わたしもその通りだと思います。

いままだ、如来さまのおよび声、お釈迦さまのおとばに耳をかたむけ、七人の高僧がたのお導きをおがしていただくばかりです。如来さまのご恩を知り、釈迦・高僧のお徳に感謝する心のなかで「正信偈」をうたわしていただきま

(偈前の文の取意)

「正信念仏偈」というのがその正しい名前ですが、そういう名前をつけられたのも先に掲げた文章のおこころでした。

すなわち、「正信念仏偈」という題の意味は「正しい信心」と「正しいお念佛」の偈（うた）という意味です。

まず、「正しい信心」というのは、どういう信心をいうのでしょうか。

親鸞さまは、「信心というものは聞くこと」だとキツバカリと言いたれます。

南無阿弥陀仏といふ、如来さまのおよび声のなかに、私のために願い働くたさる親心を聞き、たゞひたすらにもつたいなやといだかしていたじくことを信心というのだとおつしやいます。

「正しい信心」とは、凡夫が、切ない親心によびさまされたそのときのよろこびを「信心」といふのです。お経のなかには「至心・信樂・欲生」ということばで示されています。

次に「正しい念佛」とは、私ゆえの如来の悲願（慈悲のねがい）と業力（はたらき）にめざめ・気づき・驚き・よろこびしていただくその口から、親をよぶお念佛が自然にこぼれ出でまいります。それをこそ親鸞さまは「正しい念佛」とよばれたのです。

私の心のなかに作りあげた信心ではありません。

私が凡夫の欲のなかで称え出していくそんな念佛でもありません。

私のこのいのちを、その根源からつみ・さよえ・照しつゝける如来の願行に、いまようやくめざめさせられた私。はすの花がいまはじめ開いて、大きな光のなかに親に出会えたそのよろこびのなかへ、「あ、おかあさん」とよばずにおれないのです。

親鸞さまは、親にはじめて出会えたそのよろこびを、おさえ切れずに訴えられるのです。

「偈」・「うた」とは、「うつたえる」というところから出てきたことばと申します。

正信偈の構成

「正信念仏偈」は、七字で一句のうたです。

全体でちょうど百二十句でてきております。

このうたは、大きく分けて四つの部分から成り立つております。

第一 親鸞さまご自身のおよろこびのことばです。

「帰命無量寿如来・南無不可思議光」の一 句です。

第二 「大無量寿經」というお経をより処にして、如来さまのお慈悲の始終をお聞きになり、真実の教をはたゞ一つ、南無阿弥陀仏より他にないことをお教えくださいました。

お釈迦さまのお徳をたたえられます。

お経によつてうたわたれた部分ですから、この部分を「依經段」といつています。

第三 印度・中国・日本と、このお念佛の法門をその時代時代、その個性個性によつて解説し伝えてくださつた七人の偉大な高僧（七高僧といふます）がたの教えを、一つ一つあおいでうたつていかれます。

「印度西天之論家」から「必以信心為能入」までがそれで、「依經段」とよんでいます。

第四 いちばん終りの四句は、親鸞さまが、「さあ、このお念佛を、みんな共々に、聞き信じさしてもらおうではありますか」と、おすすめになつてゐる一段です。

葬儀

葬儀

九月三日 上小田

斎藤 鶴様葬儀

九月十八日 正法寺

山田むつえ様葬儀

十月のこよみ

「兵庫教区報」編集委員会（神戸）

出石組「連研」（西宗寺）・仏社、仏壇、仏壇合同役員会

玉日会報恩講（正福寺）

兵庫教区同朋運動推進委員会修会講師斎藤庄治氏宅忌明。「連研」補講（勝林寺）

神戸別院仏壇永代經説教前住職一周忌法要

官嶋清三氏宅法事・玉井秀蔵氏宅法事湯口長一氏宅法事但馬三組合同寺族僧侶研修会講師

西宮西福寺総代追悼会説教三十四日 西方寺報恩講

兵庫教区細画変更諮詢委員会（神戸）前住職一周忌法要

「法句經」

あるおかあさんの
はなし



すつと、大衆食堂をなさつてゐるおうちの、おかげさんから聞いた話です。

私たち夫婦は、ずいぶん若くて結婚して、一人で一生懸命働いて、それでやつとお店を持つことができました。

ようやくお店をもつた年に子供が生まれました。自分のお店がもてたし、自分も子どもの親になれただのです。それで、私たち夫婦は、より以上にがんばらなければならなかつたのです。
がんばつて、毎となく夜となく働いたのです。

ところが、一年たつて気がついてみると、一つは上になるのに、私の赤ちゃんは、ことはを、なんにも。まともに言つてくれないです。

心配になりました。
それで、その日はお店を休みにして、おとうち
やんもいつしよで、病院に行つたのです。
「しゃべるのが早い子もいます。おそい子もい

ます。まちまちですから、心配しなくても大丈夫です。おかげさんが、なんでも、話しかけてあげてくださいね。」

夫婦は、はじめて赤ちゃんのおかあちゃんおとうちゃんとして、真剣に考えあいました。ことはは、赤ちゃんが、ひとりでに、しゃべり

それからは、調理場の、かたすみに、赤ちゃんコーナーをつくりました。

14



十月三日、但丹プロツク仏社研修会が、豊岡の光行寺で行なわれました。勝林寺仏社役員も出席して講師山崎一朗先生の指導のもとに、円一日、濃密な研修をしました。

勝林寺では、毎夏、一泊二日の子供研修会をしています。今年で十六回目になりました。ずつと仏婦のおかあさんがお世話をしてくれました。

その赤ちゃんは、実はもう四十七歳です。
四十七歳で、人かどの「ことば」をしやべつてくれ
らしていますが、「ことば」のもとは、赤ちゃんの
とき、親のはたらきのなかから教えてもらつた、「
ちやあちゃん」から、とてもとも出られません。
宿縁あればこそ

んといつしよに赤ちゃんをあやすのです。
なんと、そうしているうちに、赤ちゃんは、いき
いきした目で、親の私をおうではありませんか。
それからしばらくして、「ちやあちゃん」と、私
をよんでくれたときの喜しかったこと。
ことばでもなんでもない声ですのに、私と夫は、
仕事もおつぱり出してバンザイ言つたんです。
私は、こうして、はじめて「親」になりました

花を摘むのに
夢中になつてゐる人
がまだ望を果さない
うちに、
老と死とが
かれを征服する。

「法句經」

別修報恩講

おが別だ恩む今
ま、にき講か年も、
いどこたえ、
りう察いつし、お
下ぞ内とてお
さおを思め、と
い繰差いよ、
り上ますり、
合げますい、
わせますた報お

日時　十月三十日（土）夕
会場　勝林寺

※ 仏社・仏婦会員のみなさま。
あらためてそれぞれの会からお願ひ
致しますが、何卒ご協力下さい。

二十八日
出石・かじや 中川富夫様
書

1958年本溪大豐相改造工程開保鋼及支決算報告書

[収入の部]						
1. 門徒寄付金		1	0	2	6	8,000
2. 信徒寄付金			1	0	7	0,000
3. 他収入				7	7,000	
合計		1	1	4	1	5,000

【支出の部】						
1. 風 案 瓦 工 事 貨		5	6	7	0	0
2. 木 工 工 事 貨		1	6	7	8	5
3. 板 金 工 事 貨		7	5	0	0	0
4. 鉄 板 工 事 貨		9	2	0	0	0
5. 左 官 工 事 貨		3	8	0	0	0
6. 坡 水 工 事 貨		2	7	0	0	0
7. 改 木 处 理 貨		3	0	0	0	0
8. 野 地 板 等		5	8	8	0	0
9. 油 漆 貨		9	0	5	0	5
10. 英 菜 貨		6	4	8	7	9
11. 通 信 貨		3	9	6	1	3
12. 起 工 式 貨		4	2	8	5	0
13. 建 成 式 並 紀 念 品 貨		4	3	2	9	0
14. 贈 金		6	0	0	0	0
15. 印 底		4	0	0	0	0
合 计		1	1	3	2	7

八月の末日をもつて一本堂大屋根改修工事」の寄附も収納完結致しました。代議員・推進委員・建築委員をはじめとするご門徒・檀信徒のご厚情に、あらためて心から御礼申します。

先般の代議員会で、あらかたの收支決算をお伝え申ましたが、あらためて左の通り最終決算をご報告して感謝の意を表します。

なお、この事業に精根を傾け健康をそこなわれたごめん、辞意を申し出ておられた宮崎清三門徒総代会長に対しても、住職・総代その他より強く留任を懇請し翻意を得ましたこともご報告申します

仏 毎年、二月の第二日曜日がダーナの日で
婦 い　ま　す。
　　ベトナム難民の人や水害にあわれた方々
　　の、わずかでもはげみになればと思つて
　　います。
　　さ・ね・ま・き・た・び等
　　石けん・タオル・よだれかけ・買物ぶく

お念仏に生かされているようござる。隣の
人にも伝えましょ。